

岡山 YMCA ESD への取り組みについて

Activity on ESD by Okayama YMCA, Japan

財団法人 岡山 YMCA 総主事 太田直宏

Mr. Tadahiro OHTA

Incorporated foundation, Okayama YMCA, Japan

I. 取組内容

アメリカの経済学者であるドラッカー博士は、その著書「非営利組織の経営」の中で、「非営利機関は、良き意図を持って良いことをしたいというだけでは十分ではない。成果を上げ、人と社会に変革をもたらすために存在している。したがって、まずとりあげなければならないのは、いかなる使命を非営利機関は果たしうるか、いかなる使命は果たし得ないか、そしてその使命をどのように定めるかという問題である。」と、明確で適切な使命と具体的行動計画策定の必要性を説いている。ドラッカーはまた、「使命の表現は、それに基づいて現実にごけるものでなければならない。そうでなければ、単なる良き意図の表明に終わってしまう。使命の表現はその機関が現実は何をしようとしているのかに焦点を絞ったものでなければならず、その組織にかかわる一人一人が、目標を達成するために自分が貢献すべきことはこれだ、といえるものでなければならない」としている。

私たちの所属する YMCA という組織は、世界平和に貢献することのできる人材を育成する、すなわち人間教育を目指している非営利公益組織である。教育とは"education"。その語源は、ラテン語の educare である。e は「外へ」、ducare は「引き出す」。つまり、人間一人一人が持つ可能性、すなわち、社会が無意識のうちに内在する可能性を、意識的に引き出し、より平和な社会を造り出すことが究極の目的なのである。しかしながら、これだけではドラッカーのいうところの良き意図の表明にとどまってしまうとの観点から、岡山 YMCA では 1996 年度「岡山 YMCA の使命検討委員会」が組織され、熱心な討議がなされた。そして、1997 年 3 月、理事・常議員会の席上で以下のようにその使命を決定した。

II. 目標(使命)

「岡山 YMCA の使命～共に生きる社会をみんなの手で」

岡山 YMCA は、岡山の先人たちのボランティア精神を受け継ぎ、イエス・キリストによって示された愛と奉仕のわざに励み、すべての人々が精神、知性、身体の調和のとれた全人的成長をとげることがを願い、ひとつとなるための働きを行います。

(1) 連帯

宗教を越えて、異なった思想、信条、文化、民族を理解し、共に生きる社会の実現に努めます。

(2) ボランティア精神

ボランティア精神を培い、地域や国際社会に貢献する良きリーダーを育成し、ひとびとの痛みや喜びを分かちあえる運動の輪を広げることに努めます。

(3) ウェルネス (Wellness)

生涯にわたり、すべての人々が、心とからだの健康をつくり、出会いを通じて成長できる場と機会を提供します。

(4) 環境

地球規模で、人間とあらゆる生命がともに生きる環境保全を心におき、地域から行動します。

(5) 世界の平和

アジアの一員として、世界の人々とともに平和で公正な地球社会の実現に努めます。

III. 問題点とその対応方法

上記使命のどの項目も必要不可欠で、地域の中でこれらの事柄を具現化していくことが求められている。このなかでも特に環境教育の問題は、グローバルな時代を迎えた私たちにとって、次の世代に命のバトンを渡していくために最も大切にしていかなければならないとの認識している。YMCA では、環境教育を「わたしも環境の一員であって、私をとりまくすべてのもののなかで調和良く生き、生かされていることに気づいていくプロセス」と定義している。これは、カーソン博士のセンスオブワンダーやネイティブアメリカンの首長シアトルの思想から強い影響を受けている。

150 年前、アメリカ政府によって半ば強制的に居留地へと移されたシアトルは、大統領に伝えてほしいとスピーチを行った。大地との強い一体感、それを失う悲しさと、溢れるような大地への思いが語られたこのスピーチは、人々の心をゆさぶり、手から手へと伝えられ 1970 年代のアメリカでは、エコロジストたちのバイブル的存在となって爆発的に広まった。その中でシアトルは、「あらゆるものが つながっている。わたしたちが この命の織り物を織ったのではない。私たちはそのなかの 一本の糸にすぎないのだ。」と述べている。この思想は極めて今日的であり、持続可能な社会形成のためにも極めて有効である。私たちはこの思いを多くの方に伝えたいと願っている。

そのためにも、長期的視野に立って、こどもたち向けの環境教育のプログラムとして、月一度の野外活動友の会や季節ごとに実施されるキャンプを実践している。これらのプログラムに参加するこどもたちは年間のべ 2000 人にのぼり、その活動のサポーターである大学生ボランティアも 60 人余りが活動している。こどもたちやリーダーもたちは、活動の中で多くの気づきを得、センスオブワンダーの心を持ち帰る。私がこの仕事を始めて 20 年になるが、徐々にではあるが過去に参加者だったこどもたちが、指導者として YMCA に帰ってき、現在こどもたちのリーダーとして各地で活躍してくれている。今後も撒かれた種が多く発芽し、大きく成長することを願っている。

IV. 地域の中での活動の位置づけ

地域にある他の自然保護や環境教育を実施する NPO とのネットワークは年々強化され、岡山県ネイチャーゲーム協会・岡山県キャンプ協会の設立ならびに運営に携わっている。また岡山市教育委員会や里山センターと共働して、種々のプログラムの企画立案にも取り組み、地域内のコアとしての働きを担っている。2000 年には協力関係を築いている諸団体のみんなと共に「操山里山フェスティバルー世界は大きなジグソーパズル、私もなろう 1 ピース」を実施し、アース基金協会主催のアースディイベントコンテストで、全国最優秀賞を受賞させていただいた。

今こそ、私たちはセンスオブワンダーの心を取り戻さなければならない。自然の営みに対して驚き、慈しむ心を持ち続けることで、「自己を愛するように他者や自分の周りの環境を愛する」人が育ってくるはずであろう。そのことがひいては社会の改革を実現していくことと信じたい。一朝一夕ではなしとげることができないのは自明の理である。あまりにもゴールが遠すぎるように感じるかもしれない。しかし、世界は大きなジグソーパズルなのだ。私達ひとりひとりが平和を担う 1 片 (ピース) とならなければならない世紀が来るべき 21 世紀なのだ。そのためにもますます多くの変革された人間を世に送り出し、持続可能な社会を創設していきたいと祈念している。